

松本地方のチーム健闘

第十八回市民タイムス少年サッカー新人戦・カガミカップは二十四日、木曾北部JFCの初優勝で幕を閉じ、松本地方のチームも筑摩野サッカーコースポーツ少年団が準優勝、豊科北少年サッカークラブが三位となる健闘を見せた。各チームが繰り広げた熱戦は、来季の戦力分布を占う試金石となり、敗れたチームも課題の洗い出しができるなど、収穫の多い大会となった。

連覇阻まれるも「悔い残らず」

準優勝の筑摩野登録選手十四人のうち四年生が七人を占めた筑摩野。2試合連続のPK戦を演じた末に迎えた決勝は、体力の消耗が大きく影響した。大会初の連

覇に挑んだ夢は、あと一歩のところまでついでたが、涙はなかった。中盤のパスワークにさえ見せ、奪ったボールを守備ラインからでもつなくプレーを心掛けた。一般規格のピッチで戦った準々決勝以上でも、広いスペースにロングボールをけり込む大味な展開をせず、リードを許した決勝でもボールを回して好機をつくるスタイルを

貫いた。接戦を制して準優勝を果たした戦いぶりを、「最後まであきらめずに粘れた」と評価し、大会の収穫に挙げた塩原淳司監督。「悔いは残らない。新たな出発点でもあり」と続ける。チームを率いた神田純希主将は、「優勝できなくて悔しい。来年はこの場所に返って、今度は優勝したい」と巻き返しを誓った。

選手悔し泣き
さらなる成長へ
3位の豊科北

筑摩野 2 (1-1) 2 豊科南
PK 4-3
豊科北 3 (1-0) 0 高山
2-0-0
◇芝生グラウンド

▽準決勝
◇アルウィン
木曾北 3 (0-2) 2 諏訪
部 3 (3-0) 0
豊科北 0 (0-0) 0 豊科北
PK 4-3



初優勝を果たした木曾北部JFC



準優勝の筑摩野サッカースポーツ少年団



3位の豊科北少年サッカークラブ



3位の諏訪FC